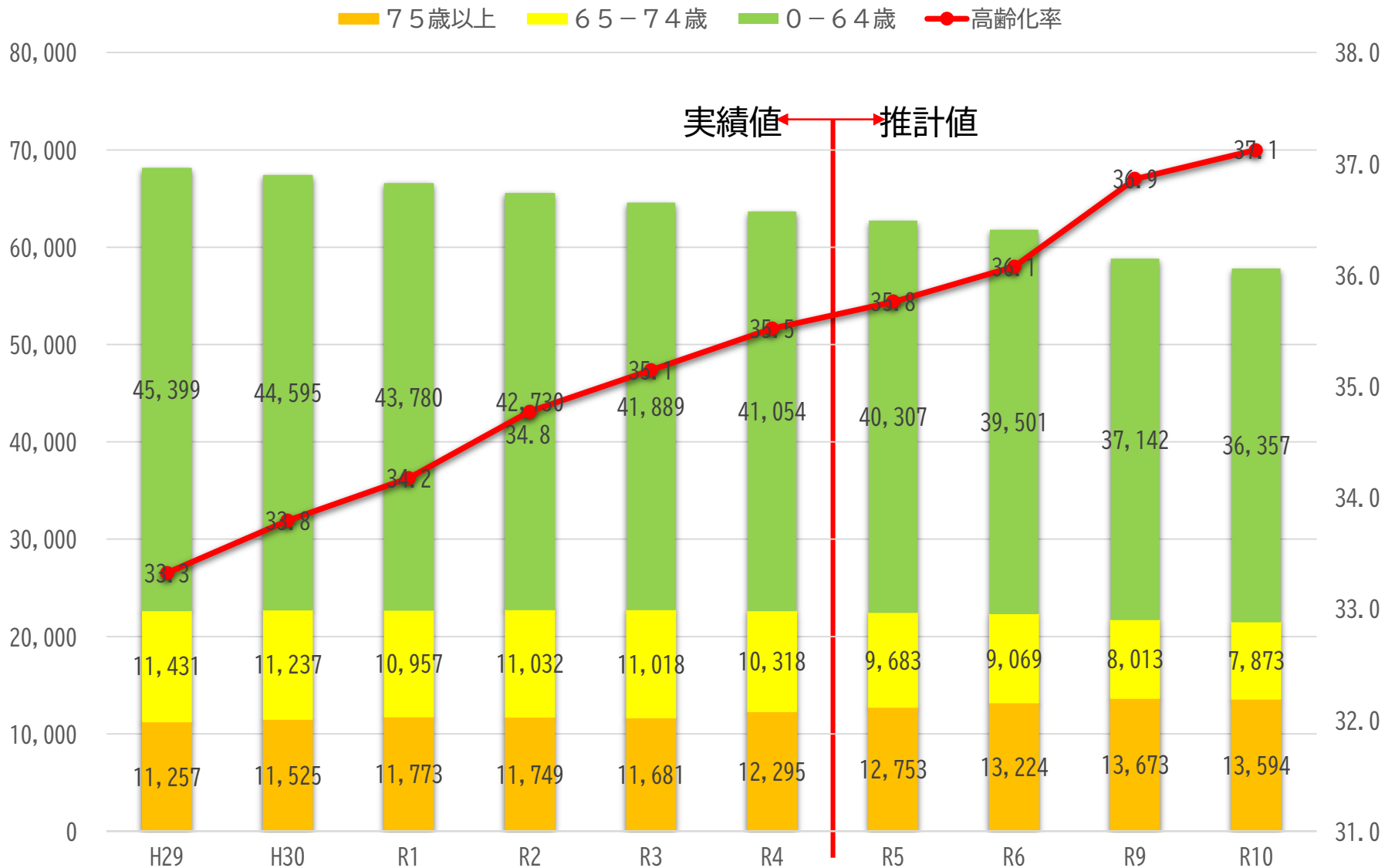


高齢者分科会

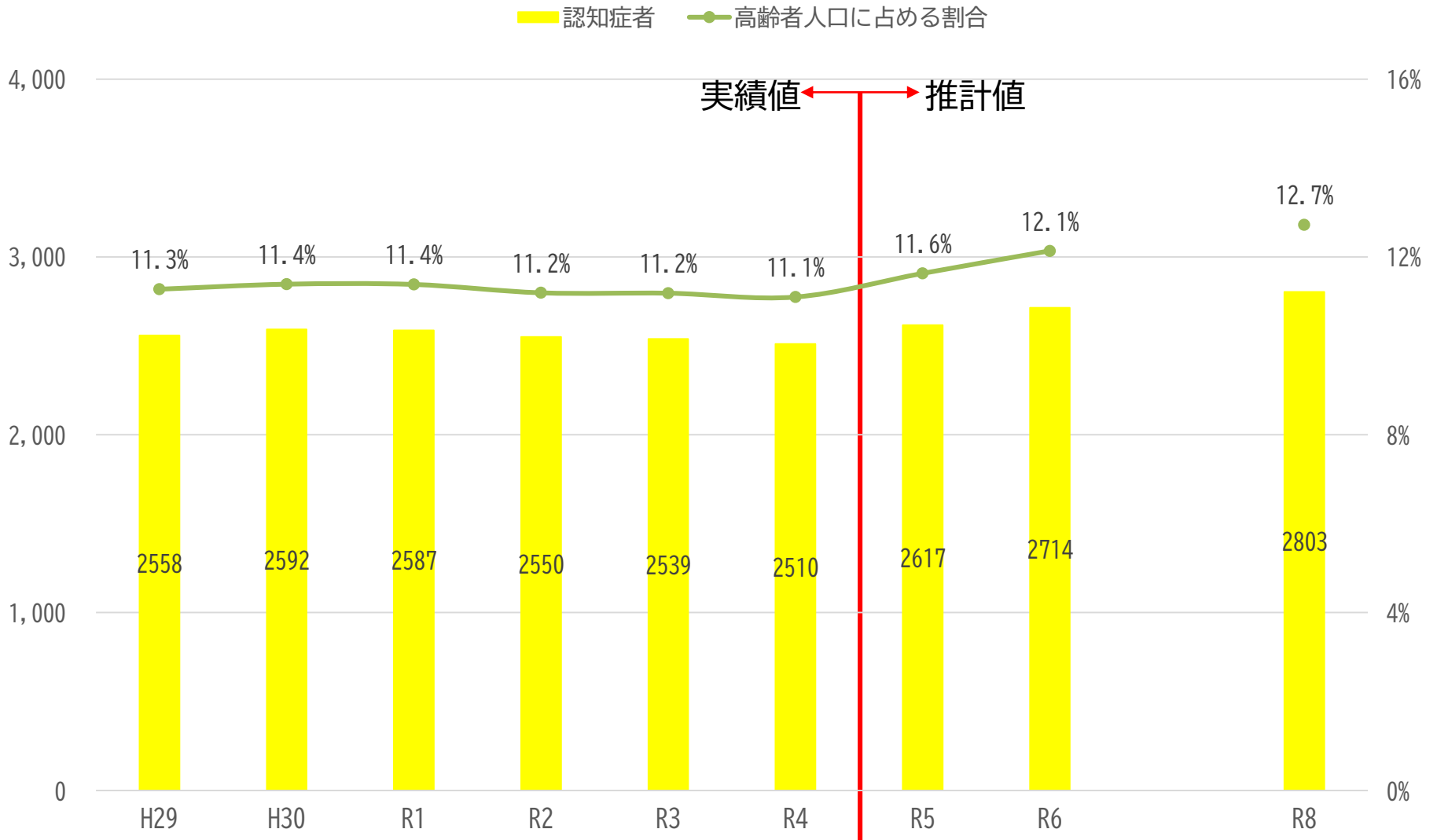
総人口と高齢者数・高齢化率の推移



H29～R4：各年度10月1日現在
R5以降：コーホート変化率法による推計

認知症高齢者の推移

認知症高齢者数と割合



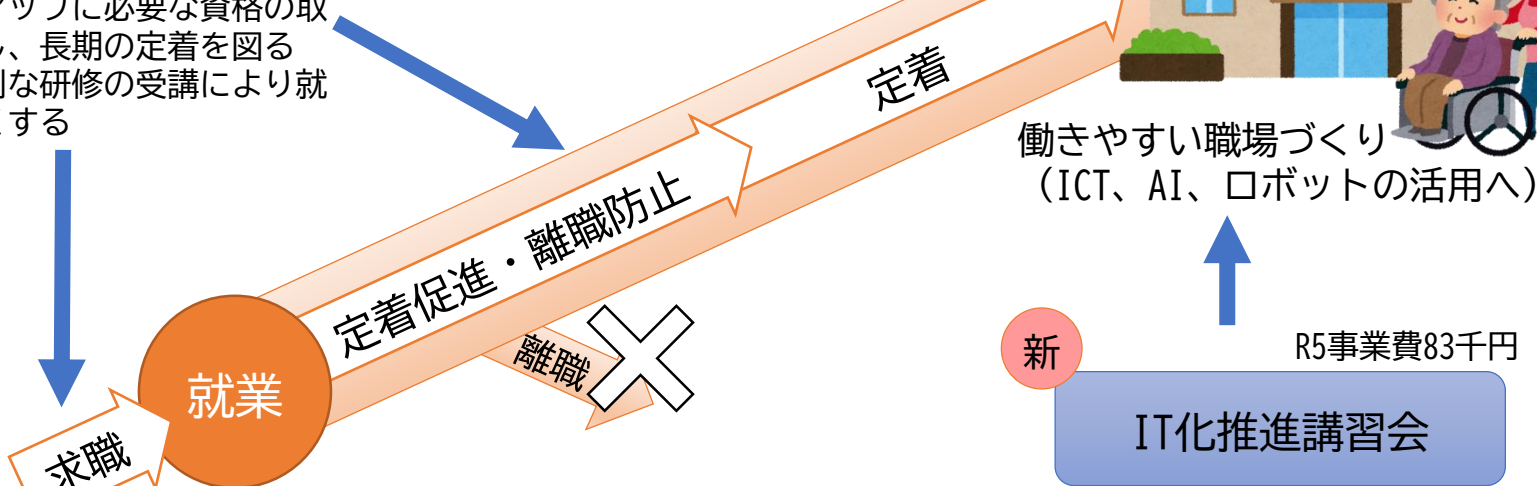
介護人材確保に向けた取組み

継続

R5事業費390千円

資格試験受験料助成
研修受講費助成

キャリアアップに必要な資格の取得を促進し、長期の定着を図る
就業に有利な研修の受講により就業しやすくする



就業

求職

定着促進・離職防止

離職

働きやすい職場づくり
(ICT、AI、ロボットの活用へ)

新

R5事業費83千円

IT化推進講習会

介護業界向けIT企業から講師を招き、IT化のメリット等をテーマに事業所管理者向けの講習会を開催し、IT化を促進

継続

R5事業費186千円

合同就職説明会

事業者から具体的な話を聞く機会を設け就業につなげる



来春卒業



求職中



転職希望

継続

(広報掲載のため予算計上なし)

広報
「介護のしごと」紹介

一般向け周知・イメージアップ

加賀市の認知症施策全体について

●認知症施策推進大綱【基本的な考え】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防（※1）」を車の両輪として施策を推進

認知機能低下のない人

認知機能低下のある人
(軽度認知機能低下 (MCI) 含む)

認知症の人

・認知症になることを遅らせる取り組み（一次予防）の推進

・早期発見・早期対応（二次予防）、発症後の進行を遅らせる取り組み（三次予防）

・認知症の人本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進

①啓発普及・本人発信支援

- 認知症サポーター養成講座（キャラバン・メイト活動）
- 地域包括支援センター
- （ランチ含む）の運営
- 介護なんでも110番相談窓口
- 当事者講演会
- 認知症ケアパス（私の暮らし手帳）
- 本人ミーティングの開催

②予防

- 地域おたっしやサークル
- 地域型元気はつらつ塾
- もの忘れ健診
- 慢性疼痛改善プログラム
- オンライン「通いの場」アプリ
- 高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施
- 脳活性化プログラムの啓発普及

「**予防（※1）**」とは、
「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味が込められている。

③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 認知症初期集中支援チーム
- 中堅職員研修（認知症対応力向上研修）
- 認知症地域支援推進員の育成
- かかりつけ医等認知症対応力向上研修
- 家族介護支援事業
- 認知症見立て塾
- 認知症カフェやボランティア（認とも）の育成

④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加

- 成年後見制度活用
- 見守りネットワーク（安心メール）
- チームオレンジの設置

⑤研究開発・産業促進・国際展開



加賀市版認知症ケアパス
（わたしの暮らし手帳）第3版

○認知症ケアパスとは、発症予防から人生の最終段階まで、生活機能障害の進行状況に合わせ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいのか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したものです。

○加賀市では、認知症ケアパスの要素に医療や介護サービスの希望等エンディングの内容や自分の「これまで・今・これから」の暮らし方を記載できるよう内容を追加し作成した。

⇒『どんなふうに暮らしていきたいか』を今の段階から考えるきっかけとして、作成した。

活動実績

①寸劇を通した活動

年度	実施回数	参加した市民の数
H28	4回	275名
H29	22回	795名
H30	38回	876名
R1	20回	407名
R2	2回	24名
R3	3回	57名
R4	5回	114名

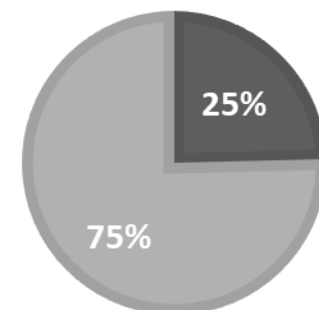
②その他

(10月時点)

- ・ NHKの番組（おはよう石川、おはよう日本）での放送（NHK放送後の問い合わせ実績：市内41件、市外102件）
- ・ 市のケーブルテレビ、広報かがの特集記事
- ・ 第一生命保険株式会社との共同セミナーを開催
- ・ 医師会、薬剤師会への周知および各医院への設置
- ・ 市役所・支所・各出張所への配置

わたしの暮らし手帳を知っていますか

■ 知っている ■ 知らない



③わたしの暮らし手帳の認知度

令和3年度 介護予防基本チェックリストより（市内70歳以上対象）
 回答者 8,306名の内『わたしの暮らし手帳を知っている』と回答したのは「2,047名（24.6%）」

介護者のへの支援認知症の人の家族に対する支援事業 (認知症カフェ)

【事業の目的】

認知症の人及び家族、専門職、地域住民がつながり、支援することで、ピアカウンセリング（同じ背景を持つ人同士が対等な立場で話を聞きあうこと）及び家族の介護負担を図る。

【事業イメージ】

- 軽度認知障害（MCI）の診断やもの忘れ健診等受診後の経過フォロー対象者に対して、本人のニーズと介護保険サービス等の既存サービスが合致せず、支援につながらない不安な期間（空白の期間）がある。
- そのため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場を設置する。



かかりつけ医師より
軽度認知症の方等を紹介

ケアマネジャー等からの
紹介

【メンバー】当事者、家族、医師、医療ソーシャルワーカー、看護師、認知症サポーター等

【期待される効果】

- 認知症当事者が本音を話し合うことが出来るようになり、今後の生活の希望や新たな活動につながる。
- 家族にとって相談の機会となり、認知症の介護による地域からの孤立を防ぐことができる。